

長野県短期大学付属図書館蔵和書解題 (一)

——女子教育書の部——

太* 刀 川 清

本学付属図書館の蔵書に相当数の和書の女子教育書というべきものがある。これは本学の前身長野県女子専門学校で教鞭をとった故布村安弘氏の寄贈によるもので、その数約八〇点を数える。

伝え聞けば、氏は富山県出身、京都大学を卒業。長野県女子専門学校着任はその創設期である。昭和五年（一九三〇）の教員組織の中に教授としての名が見え、昭和七年には歴史地理の担当教授とある。在職は昭和十六年八月まで、その後は遠く大陸の北京大学に転出されたという。

ちなみに件の和書の寄贈は昭和十年五月六日である。

また同氏の寄贈には茶道関係の図書があるが本稿では除いた。

凡 例

本稿は江戸時代の作品を原則としたが明治の作品も和本に限って所収した。記載は次のような要領に従った。なお活字本は別に末尾に収めた。

一 配列は五十音順。見出しの書名は原則として第一冊目の表紙題簽の表記に従った。その際、副題、その他は除外した。

二 「登録番号」には分類上問題のあるものがあるが、一応従来のものに従った。

三 「柱刻」について記載のないものは、特に柱刻のないものである。

四 「本文行数」は作品内容の性格上一定しないものがあるので、一定するものに限った。

五 「備考」には、分類、編著者。内容について簡略に記述した。これによって当該の女子教育書の概略を知り得ることを配慮したからである。

以上

本稿は国文学研究資料館の平成四年度文献資料調査に併せて作成したものである。これには、図書館長の成澤栄寿教授、司書の横川永子さんの格別の御高配のあったことを記して謝意を表します。

1 越後孝婦伝〔登録152.6—1〕

刊本 袋綴 大本(27.0×18.3) 一巻一冊〔表紙〕白色無地
 〔題簽〕刷直題簽 單郭 中央「越後孝婦伝 全」〔内題〕「越後孝婦伝」〔丁数〕全13〔本文行数〕6〔字高〕24.5〔挿絵〕ナシ
 〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕不明。但し寛保五年成立、「安政五年戊午源為宜応需享」

〔備考〕伝記。林愿著。越後国三島郡尼瀬の大工作太夫の妻の孝婦伝。「越後孝婦伝」「越後国姫孝心の次第」「再刻尼瀬孝婦伝跋」から成る。

2 絵本忠経〔登録152.6—2〕

刊本 袋綴 半紙本(21.4×15.7) 一巻一冊〔表紙〕萌黄色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「絵本忠経」〔柱刻〕「絵本忠経 嵩山房」〔内題〕ナシ〔丁数〕全55〔本文行数〕9〔匡郭〕17.7×13.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「天保五年午年正月発兌／葛飾前北齊為一老人画／彫工杉田金助／東都書肆日本橋通二丁目小林新兵衛」

〔備考〕教訓絵本。高井蘭山著。忠経に和漢の忠臣高名の者の絵を加えて児童の教えとした。

3 絵本姫小松〔登録159.6—43—1—3〕

刊本 袋綴 半紙本(22.5×15.9) 三巻三冊〔表紙〕萌黄色横刷毛目草模様〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「男女風体和歌教訓絵本姫小松 上」(中・下)〔内題〕和歌教訓絵本姫小松〔丁数〕全38〔本文行数〕11〔匡郭〕17.9×13.2〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕

「寛保二年壬戌正月吉日／寺町通松原上ル町／京都書林 菱屋治兵衛版」

〔備考〕教訓絵本。西川祐信著画。男女の姿模様を和歌の風鉢にうつした。「正鉢風」「幽玄鉢」「有心鉢」「麗鉢」など三六鉢の和歌で例示する。「うつしうゆる松のみどりも君が代もけふこそ千代のはじめなりけれ」(正鉢風)「思ひ川たへずなかるゝ水のあはのうたかた人にあらできえめや」(幽玄鉢)は一例。

4 絵本藤の縁〔登録913.36—4—1—3〕

刊本 袋綴 半紙本(17.4×13.4) 三巻三冊〔表紙〕濃紺無地〔題簽〕書後題簽 左肩「絵本藤の縁 上」(中・下)〔内題〕ナシ〔丁数〕全44〔匡郭〕17.4×13.4〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「寛延四年 東都書林 大伝馬町三丁目鱗形屋孫兵衛／皇都書林 寺町通松原上ル町菱屋治兵衛版」

〔備考〕物語絵本。方舟子著。長谷川光信画。「源氏物語」の各巻の大概を絵図で示した。上巻「桐壺」から「松風」、中巻「うす雲」から「柏木」、下巻「横笛」から「夢浮橋」。

5 小倉百人一首〔登録911.14—14〕

刊本 袋綴 半紙本(21.0×14.7) 一巻一冊〔表紙〕薄藍色無地〔題簽〕刷原題簽 左肩「漢五十四帖小倉百人一首」〔柱刻〕花鳥〔内題〕ナシ〔丁数〕全24〔匡郭〕18.7×12.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治十三年一月廿七日版權免許／同年二月日刻成出版／編輯人 東京府士族 関葦雄(他に筆者人、発行人 特別売捌)」

〔備考〕教訓。関葦雄編。「小倉百人一首を人物絵入りで記す。頭書記事は「桐壺」以下の五十四帖の中の和歌一首ずつ。「女今川」。

6 教の玉章おしよたまさず〔登録159.6—20〕

刊本 袋綴 半紙本 (17.7×12.7) 一冊〔表紙〕黄色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女女教の玉章 上」〔柱刻〕教の文章上〔内題〕「女童教の文章」〔丁数〕全5〔本文行数〕5〔匡郭〕17.7×12.7〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕ナシ
 〔備考〕教訓。小川持正著。「女大学」に従って女子修身を説く。
 (上巻のみの零本)

7 女今川おんないまがわに錦の小宝いんから〔登録159.6—8〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.6×15.7) 一巻一冊〔表紙〕青色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女今川錦の小宝 全」〔柱刻〕「女今川」〔内題〕「女今川錦小宝」〔丁数〕全15〔本文行数〕5〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「文政九戌年再版／天保八酉年再刻／東都書林 芝神明前三島町 甘泉堂和泉屋市兵衛版」

〔備考〕往来。巻首に「蓬菜図」「和琴の図」「琵琶三味線図」。以下「今川になぞらへて自をいましむ制詞条々」。頭書記事は「年中祝事の始」「女中食礼指南」「婦人給仕指南」など。

8 女今川おんないまがわに姫小松こまつ〔登録159.6—7〕

刊本 袋綴 半紙本 (24.8×17.9) 一巻一冊〔表紙〕紺色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女今川姫小松 全」〔柱刻〕「女今川」〔内題〕ナシ〔丁数〕全13.5〔本文行数〕5〔匡郭〕20.4×13.6〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「女今川姫小松 全／書林文江堂梓」

〔備考〕往来。「今川に准へて自を禁む制詞の条々」。頭書記事は「女手習状」。

9 女鏡おんなかがみ〔登録159.6—2—1—3〕

刊本 袋綴 大本 (26.3×18.4) 三卷三冊〔表紙〕紺色紗綾形蔓草〔題簽〕刷原題簽 单郭 左肩「女鏡秘伝書 上」(中・下)〔柱刻〕「女鏡・上」(中・下)〔内題〕「女鏡秘伝書 上」(中・下)〔丁数〕全14〔本文行数〕12〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「山本長兵衛板」

〔備考〕教訓・作法。女性の生活一般の作法書。上巻は天地陰陽から五障三従の事、神仏への信仰、以下嫁入までの行儀作法、衣服の仕立て方、化粧挨拶などの躰方。中巻は文章の書き方、婚儀の作法、注意心得。下巻は性生活の注意、妊娠出産育児、さらに老後の覚悟など。初版の「慶安四年正月吉日」の刊記を削った後印本。

10 女家訓おんなかみくち〔登録159.2—2—1—3〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.4×15.8) 三卷三冊〔表紙〕藍色無地〔題簽〕刷原題簽 单郭 左肩「女家訓 上」(中・下)〔柱刻〕「上」(中・下)〔内題〕「女家訓 卷之上」(卷之中・卷之下)〔丁数〕全10〔本文行数〕7〔匡郭〕19.3×11.8〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「享保己酉睦月上弦／雉書舎楊文軒子刊行之京書林 三条通川原町西入町 正本屋兵衛／三条通寺町西入町 菊屋利兵衛板」

〔備考〕教訓。保井恕庵著。『鑑草』(正保四)の主旨、構成に倣った。「孝逆」「守節」「不嫉」「教子」「慈残」「仁虐」「淑睦」「廉食」の八ヶ条に分け、女性の心得を説く。

11 女敵討おんなかたうち〔登録159.6—3〕

刊本 袋綴 大本 (25.5×17.5) 一巻一冊〔表紙〕灰色無地

〔題簽〕書後題簽 單郭 左肩「女敵討」「内題」「女敵討」「丁数」全86〔本文行数〕9〔字高〕180〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕ナシ

〔備考〕伝記。松平周防守の奥方付老の女沢野が女中のお道を自害に追いやる。それを憤ったお道の下女さつが主人の敵と沢野を討った物語。

12 女式目鏡草〔登録159.6—16〕

刊本 袋綴 半紙本(22.8×15.8) 一巻一冊〔表紙〕藍色小松〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女式目鏡草 全」(角書剝落)〔柱刻〕「女式目」「内題」「女式目」「丁数」全80〔本文行数〕6〔匡郭〕18.7×13.4〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「嘉永五年壬子春二月上梓／江戸発行書林 日本橋南町丁目須原屋茂兵衛(他九店連記)」

〔備考〕教訓、往来。高井蘭山著。英林画。女性生涯の心得を、男子の読むべき御成敗式目に做った女式目。頭書記事は「本朝女廿四考」。以下裁法化粧懷妊の心得など。

13 女実語教鎖囊〔登録159.6—4〕

刊本 袋綴 大本(26.0×18.3) 一巻一冊〔表紙〕濃紺無地〔題簽〕〔剝語〕〔内題〕ナシ〔丁数〕全84.5〔匡郭〕21.8×15.1〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「享和二年戊初春／京都書林 寺町通松原下ル菊屋喜兵衛／同二条下ル町 松屋安兵衛」

〔備考〕往来。「万代日用膳方大全」とも。巻頭に「蓬菜台」「小町の絵図」「伊勢両宮の風景図」「京嵯峨風景図」「御所風、武家風、町風 妄風 尼風 遊女風」などの女性風俗。「男女相生

の事」「女中名字尽し」などから「裁法秘伝」まで。「女実語教鎖囊」は女子の父母舅姑に仕え夫に従い一生の身を治める教誡。「実語教」「童子教」に做った。頭書記事は「女中身持鑑」。

14 女小学〔登録159.8—18—1—2〕

刊本 袋綴 大本(25.6×18.3) 二巻二冊〔表紙〕濃紺色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「佩戒女小学 上」(下)〔柱刻〕「佩戒」〔内題〕佩戒女小学(扉)〔丁数〕全86〔本文行数〕9〔匡郭〕19.4×14.0〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「享保十九乙巳暮春吉祥日／書肆江戸日本橋小河彦九郎／大坂心斎橋筋順慶町 敦賀屋九兵衛板」

〔備考〕教訓。良斎主人。角書は「佩戒」(おもひましめ)と訓む。宇保某氏の女が嫁すに餓とした女性教戒の書。「女小学訓品々の事」は「孝行の道をしへの事」「よめいりのこと」「舅姑につかふる訓」「夫を天にたとへたる訓」「人をしたしむ心持の訓」「忍の字の訓」など三〇条。

15 女大学宝箱〔登録159.6—4〕

刊本 袋綴 半紙本(22.8×15.5) 一巻一冊〔表紙〕薄藍色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女大学宝箱 全」〔柱刻〕「女」〔内題〕草教女大学(扉)〔丁数〕全81〔本文行数〕5〔匡郭〕18.6×13.0〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「安永二年癸巳仲秋 中島勘兵衛板／安永七年戊戌六月再版／寛政四年壬子九月改刻／京都弘所書林／山本長兵衛(他四店連記)」

〔備考〕教訓、往来。貝原益軒著『女大学』の通行版。巻頭記事に「農作の図」「機織の図」。頭書記事は「十二月女用文章」。

16 女重宝記〔登録159.6—12—1—5〕

刊本 袋綴 大本 (25.7×17.9) 五卷五冊〔表紙〕紺色浮線綾と藤〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女重宝記 一」(一五)「柱刻」女重宝記 卷一(一五)「内題」女重宝記 一之巻(一五之巻)「丁数」全78〔本文行数〕12〔匡郭〕18.8×13.6〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕弘化四年丁未初春／大坂心斎橋通北久太郎町／河内屋書兵衛(他七店連記)〔備考〕教訓・往来。高井蘭山著。苗村丈伯著『女重宝記』(元禄十三年)の増補改定版。巻一「女中万たしなみの巻」巻二「しうげんの巻」巻三「くわいにんの巻」巻四「しうげんの巻」巻五「女節用集字つくし」より成る。

17 女中庸瑠箱〔登録816.5—1〕

刊本 袋綴 大本 (26.0×18.3) 一巻一冊〔表紙〕紺色〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女中庸瑠箱 全」〔柱刻〕女中庸〔内題〕女中庸〔丁数〕全58.5〔本文行数〕5〔匡郭〕21.3×16.2〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕明和五戊子年／大坂書林 しんさいばし北詰／和泉屋卯兵衛板〔備考〕教訓・作法。植村玉枝子著。日本中国の堅婦貞婦の故事を交えた縣方法書 巻首記事は「女教訓諫歌」「修学寺八景図」「三十六人新歌仙図」「五節句和歌図」「五倫和歌図」など。

18 女千代のたから〔登録159.6—10〕

刊本 袋綴 大本 (26.0×18.4) 一巻一冊〔表紙〕萌黄色 繫ぎ花模様〔題簽〕刷原題簽 单郭 左肩「女千代のたから」〔柱刻〕女文〔内題〕女千代のたから〔丁数〕全25.5〔匡郭〕22.9×15.9〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕江戸大伝

馬町三丁目南／板元 鱗形屋孫兵衛

〔備考〕往来。「女大学」に做った。「女諸礼」「四季の文例」。巻首記事は「町人娘」「妾」「山茶」「端」「後家」「悟気」「茶家」「湯那」「山神」「後女打」「比丘尼」「嫉妬」の絵図。

19 女庭訓宝文庫〔登録159.3—2〕

刊本 袋綴 大本 (25.3×17.2) 一巻一冊〔表紙〕黒色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女庭訓宝文庫」〔柱刻〕女庭〔内題〕女庭訓往来〔丁数〕全47.5〔匡郭〕22.0×14.7〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕万延新刻／東都書肆 通油町藤田屋慶治郎〔備考〕往来。山栖堂主人著。王朝時代の女性の往来に准えた年間の手紙文範。睦月五日内待から少納言宛。孟春五日の少納言から内侍への返事。以下、讃岐と少将。左衛門督としなの守内。さこんと長はし。中務と少少将。弁内侍と小さいしやう。右京とすけどの。うねめと右衛門督。紀伊と小督。小式部と三位。大式と大夫局。藤内侍と肥後うねめ。

20 女寺子調法記〔登録159.7—15〕

刊本 袋綴 半紙本 (32.1×15.2) 一巻一冊〔表紙〕縦檀紙松竹梅青地に鶴〔題簽〕刷原題簽 单郭 左肩「女寺子調法記」〔柱刻〕実語〔内題〕女実語教〔丁数〕全22.5〔本文行数〕5〔匡郭〕18.8×12.9〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕文化三年丙寅五月刻成／天保十三年壬寅正月再刻／書林 江戸日本橋二丁目 山城屋佐兵衛(他三店連記)〔備考〕教訓往来。池田東籬亭著。小沢南画。「女実語教」「女今川状」「女手習教訓状」「女商売往来」から成る。

21 女童子教〔登録159.5—1〕

刊本 袋綴 大本 (26.0×19.8) 一巻一冊〔表紙〕茶褐色無地
 〔題簽〕後書題簽 双郭 左肩「女童子教」〔内題〕「女童子教」
 〔丁数〕全37.5〔匡郭〕24.2×15.7〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平
 仮名〔刊記〕「元録八乙亥歲弥生中旬／居初氏女津奈書之／文台
 屋治郎兵衛藏板」

〔備考〕教訓。居初氏女津奈著。漢文の『童子教』を女子向け
 に和文にした。夫上つかたの御前には恭有て立つことをせざれ
 (夫貴人前居頭露不得立) 貴なる人には会尺して過よ仰事あら
 ば敬てうけよ(過道路)跪過 有召事敬承)の如し。

22 女のしつけ〔登録159.6—14—1—2〕

刊本 袋綴 半紙本 (21.8×14.5) 二巻二冊〔表紙〕黄色菱地
 〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女のしつけ 巻の一」(巻の二)
 〔柱刻〕「女のしつけ」〔内題〕「女のしつけ巻の巻」(巻の二)
 〔丁数〕全110.5〔匡郭〕17.0×11.8〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平
 仮名〔刊記〕「明治十二年七月九日版權免許／十三年二月発売／
 編輯石川県第一女子師範学校 版主益智館」

〔備考〕作法。石川県第一女子師範学校編。巻一「起居ふるま
 ひ及び礼節」「品物まゐらせ様」「起ちまはりの事」「諸品受渡し」。
 巻二「配膳次第」「飲食次第」「盃事の次第」「嫁娶のしだい」。

23 女遊学操鑑〔登録159.6—18〕

刊本 袋綴 大本 (25.0×18.8) 一巻一冊〔表紙〕灰色松竹の
 鉢〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女遊学操鑑 全」〔内題〕ナ
 シ〔丁数〕全217〔匡郭〕21.2×15.5〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字
 平仮名〔刊記〕「文久二壬戌歲孟春合冊／杉本玉潤堂／京都書林」

三条通寺町西へ入／吉野屋甚助

〔備考〕往来作法。「女三十六歌仙」「女中諸式礼」「祝言式法」
 「婚礼婢方之式法」「結納進物目録次第」その他諸式法。「女大学」
 「今川によそへ自を戒む制詞の条々」「女実語教」「四季の文づく
 し」その他諸例文範など婦人百科。

24 女用大全〔登録816.5—2〕

刊本 袋綴 大本 (25.2×17.8) 合集一冊〔表紙〕藍色無地
 〔題簽〕書後題簽 左肩「女用大全」〔挿絵〕アリ〔刊記〕ナシ。
 〔備考〕往来。合集の作品は巻首記事に紫式部和泉式部赤染衛
 門昭子の絵図、つづいて「女諸礼絵抄」「女文章」「百人一首」
 「隅田川往来」「嵯峨往来」「女幼学」「絵本大和詩経」他に不明
 作二。頭書記事は「今川」。

25 女用智恵鑑〔登録159.6—17〕

刊本 袋綴 大本 (25.6×18.1) 一巻一冊〔表紙〕褐色横刷毛
 目〔題簽〕書後題簽 左肩「女用智恵鑑」〔柱刻〕「女用智恵鑑」
 〔内題〕「丁数」全174〔匡郭〕21.5×15.2〔挿絵〕アリ〔用
 字〕漢字平仮名〔刊記〕「明和六己丑正月吉日／浪華書林 心斎
 橋筋順慶町 柏原屋清右衛門」
 〔備考〕往来。「女用智恵鑑宝鑑」とも。「女諸礼媛方」「文章尽
 し」など女性日常一般の往来教訓書。

26 女用文章宝鑑〔登録816.5—3〕

刊本 袋綴 大本 (26.4×18.0) 一巻一冊〔表紙〕藍灰色〔題
 簽〕書後題簽 左肩「女用文章宝鑑」〔内題〕ナシ〔丁数〕全
 55.5〔本文行数〕5〔匡郭〕22.0×15.2〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢

字平仮名「刊記」「天保十一年庚子正月新刻／東都書林日本橋通
亭丁目／須原屋茂兵衛」

〔備考〕往来。「六歌仙」「六玉川の歌」「五節句歌」。正月から
極月までの手紙の例文等。頭書記事は「文のかへことば」、女性
の日常生活一般の作法等。

27 女要操文〔登録815.9—4〕

刊本 袋綴 大本 (25.6×18.6) 一巻一冊〔表紙〕赤褐色無地
〔題簽〕書後題簽 左肩「女要操文」〔内題〕ナシ「丁数」全
95〔本文行数〕10〔匡郭〕18.9×13.4〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字
平仮名「刊記」ナシ

〔備考〕往来。巻首記事は賢女として常盤御前、中国の王祥の
伝。以下化粧、遊芸、動物の飼育法に至るまでの女性の日常教養
百科。

28 敵討女忠信記

写本 袋綴 大本 (33.0×17.5) 一巻一冊〔表紙〕茶色無地
〔題簽〕書後題簽 左肩「敵討女忠信記」〔内題〕ナシ「丁数」全
9〔本文行数〕12～15〔字高〕21.0〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平
仮名

〔備考〕伝記。越後与板藩の江戸下屋敷での女の敵討。宝暦五
年四月、中老若野の下女が年寄役の高津を討って主人若野の仇を
晴した物語。

29 からきぬ〔登録159.6—39—1—5〕

刊本 袋綴 半紙本 (21.8×14.7) 五巻五冊〔表紙〕黄色網目
〔題簽〕書後題簽 左肩「からきぬ 一」(一五)〔柱刻〕「からき

ぬ」〔内題〕ナシ「丁数」全9.5〔本文行数〕11〔匡郭〕18.7×
12.9〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名「刊記」ナシ

〔備考〕教訓。「からきぬ」に託して人倫を論じた。「取初糸」
で序、「標種」で題名を、「教之巻」で人の身の糸筋「倫之巻」で
五つの色のおり道、「敬之巻」で人の身の糸筋で世を織る業、「稽
之巻」でよき糸筋の貴人の例、最後に「言行二巻之織物」で小序。

30 経典余師女孝経〔登録152.6—11〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.7×15.8) 一巻一冊〔表紙〕灰色無地
〔題簽〕刷原題簽、左肩「経典余師女孝経 全」〔柱刻〕「経典余
師女孝経」〔内題〕女孝経「丁教」全54〔本文行数〕9〔匡郭〕
19.5×13.7〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名「刊記」「文政七甲
申春正月発行／京都堀川通高辻上ル 枝村藤右衛門／大坂心斎橋
通順慶町数柏原屋清右衛門／江戸日本橋通二丁目 小林新兵衛」
〔備考〕教訓。高井蘭山著。鄭氏の『女孝経』を読み易くした。
本文を逐次和解しさらに頭注を付けた。

31 近世列女伝〔登録281.09—14〕

写本 袋綴 半紙本 (23.2×16.8) 一巻一冊〔表紙〕白〔本文
同紙〕無地〔題簽〕書題簽 中央「近世列女伝」〔内題〕「近世列
女伝」〔丁数〕全95〔本文行数〕10〔字高〕19.5〔挿絵〕ナシ
〔用字〕漢字平仮名「刊記」ナシ

〔備考〕伝記。「酒井遠江守右隆内室の事」「井上河内守正峯内
室の事」など武家の女性から「大谷金杉円波屋八兵衛おその立
身の事」など町家の女性まで十三人の列女伝。

32 雲井の王びなま [登録815.9—2]

刊本 袋綴 大本 (26.8×18.9) 一巻一冊 [表紙] 黒色無地
 [題簽] 書後題簽 單郭 左肩 [雲井の玉津佐] [柱刻] [上] [内
 題] ナシ [丁数] 全20.5 [本文行数] 6 [匡郭] 21.6×16.3 [挿
 絵] ナシ [用字] 漢字平仮名 [刊記] ナシ
 [備考] 往来。四季、日常の女性の手紙の文例。(上巻だけの零
 本)。

33 化粧秘伝けしょうひでん [登録383.1—131—1—3]

刊本 袋綴 半紙本 (23.9×16.5) 三巻三冊 [表紙] 濃紺色
 花菱 [題簽] 刷原題簽 左肩 [化粧秘伝 巻之上] (中・下)
 [丁数] 全91 [本文行数] 11 [匡郭] 19.0×13.5 [挿絵] アリ
 [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「文化十酉初秋/好古堂酒井藤兵衛/
 神田区淡路町二丁目」

[備考] 作法。洋館主人著。女性の化粧法について記した。刊
 記の年次をそのままにした明治版。

34 源氏百人一首げんじひゃくにんしゅ [登録911.14—16]

刊本 袋綴 大本 (25.2×17.4) 一巻一冊 [表紙] 紺色地丸に
 若松 [題簽] 刷原題簽 左肩 [源氏百人一首] [柱刻] [源氏一
 首] [内題] [源氏百人一首] [丁数] 全75.5 [本文行数] 8 [匡
 郭] 20.4×14.8 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「天保
 十二辛丑年五月/発行書林 芝神明前 岡田屋嘉七(他七店連
 記)」

[備考] 往来。黒沢満著。『源氏物語』から百二十三人の人物を
 選び、頭書記事として解説。下にその人物の和歌一首を絵図入り
 で記した。百人一首というが百二十三人。因に光源氏は「帚木」

の「つれなさをうらみもはてぬしのめにとりあへぬまでおどろ
 かすらん」。

35 孝女起野伝けいじょおのひ伝 [登録152.6—4]

刊本 袋綴 半紙 (22.3×15.7) 一巻一冊 [表紙] 朽葉色麻の
 葉地に丸に小菊と松 [題簽] 刷原題簽 双郭 左肩 [孝女起
 野伝] [柱刻] [孝女起野伝] [内題] [江州高宮孝女起野伝] [丁
 数] 全13 [本文行数] 9 [匡郭] 17.3×12.6 [挿絵] アリ [用
 字] 漢字平仮名 [刊記] 「寛政三年辛亥八月吉日発行/弘所 京
 都書林 循古堂淡海莊兵衛梓」

[備考] 伝記。中井利安著。近江国犬山郡彦根領高宮の百姓作
 治の娘起野の父母に仕える孝女物語。

36 孝女美さほ草けいじょみさほくさ [登録152.6—3—1—3]

刊本 袋綴 半紙本 (22.6×15.5) 三巻三冊 [題簽] 刷原題簽
 左肩 [孝女美さほ草 上] (中・下) [内題] [孝女操種・初篇巻之
 上] (中・下) [丁数] 全67.5 [行数] 本文 9 [匡郭] 16.0×
 10.7 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「弘化四丁未年新
 刻/三都発行書林 江戸 須原茂兵衛・岡田屋嘉七(他京都坂
 の四店連記)」

[備考] 説話。立川焉馬著。歌川豊国画。日本中国の孝女貞女
 の逸話を撰んだ。「賢女の女教訓」「唐撫子の昔話」「日本撫子の
 孝話」「貞女の和歌の話」「和歌夫を諫めし話」「得業孝女と成話」
 「聖道鬼心話」「殺燕而立貞女」「爺姥の婚礼話」「烈女の下駄話」
 の一〇話。

37 古列女伝〔登録281.09—6—1—6〕

刊本 袋綴 大本 (25.8×17.6) 八巻八冊〔表紙〕紺色無地
 〔頭簽〕刷原題簽 单郭 左肩「古列女伝 一」(一八)〔柱刻〕
 一卷(一八)〔内題〕「新刻古列女伝 卷之一(一八)〔丁数〕全
 249〔本文行数〕10〔匡郭〕19.9×13.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢
 字〔刊記〕「承応二年癸巳八月穀旦／室町通鯉山町小嶋弥左衛門
 板行」

〔備考〕伝記。漢劉向著。大古から戦国時代までの国を興し家
 を興した賢妃貞女。国を乱し家を乱した寵妾を諸書から採りこれ
 を「母儀」「賢明」「仁智」「貞順」「節義」「孽嬖」の七伝に分け
 る。

38 三国妖婦伝〔登録281.09—3—1—5〕

写本 袋綴 大本 (23.6×17.6) 五巻五冊〔表紙〕茶紫色無地
 〔頭簽〕書付題簽 左肩「三国妖婦伝」〔内題〕「三国妖婦伝 卷
 之一」(一五)〔丁数〕全161〔本文行数〕10〔字高〕20.0〔挿絵〕
 ナシ〔用字〕漢字平仮名

〔備考〕伝記。巻一「姐己の伝」巻二「耆婆の伝」巻三「孤人
 民を傷ふ」巻四「惡孤天竺に至る」巻五「玉藻前の伝」。「沢新
 林喜六郎録物」。高井蘭山著『絵本三国妖婦伝』と関係あり。

39 女誠和訓〔登録159.6—13〕

刊本 袋綴 半紙本 (20.1×15.3) 一卷一冊〔表紙〕黄色網目
 〔頭簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女誠和訓 全」〔内題〕「女誠和
 訓」〔丁数〕全20.5〔本文行数〕9〔匡郭〕17.2×13.1〔挿絵〕
 ナシ〔用字〕漢字平仮名片仮名〔刊記〕「明治七年七月／同年十
 二月刻成／尾張名古屋門前町老丁目 秋田屋源助発兌」

〔備考〕教訓。細野栗斎著。漢の班氏『女誡』の和訳本。冒頭
 に曹太家伝。以下本文を逐次頭注を付して解説。

40 諸家秘伝〔登録281.09—5〕

写本 袋綴 大本 (27.9×19.6) 一卷一冊〔表紙〕灰褐色無地
 〔頭簽〕書原題簽 左肩「諸家秘録婦女勇義伝 全」〔内題〕「諸
 家秘録」〔丁数〕全16.5〔本文行数〕11〔字高〕23.0〔挿絵〕
 リ〔用字〕漢字平仮名。

〔備考〕伝記。諸家の伝記の中に、「長谷川丹左衛門女房清水数
 馬密通の事」「世上に女大名といふ沙汰有し事」「小出大和守百英
 内室勝と云女武勇有て手柄せし事」など女性の伝。

41 女訓抄〔登録159.6—1—1—3〕

刊本 袋綴 大本 (27.7×17.6) 三巻三冊〔表紙〕藍色無地
 〔頭簽〕刷原題簽 双郭 左肩「女訓抄 上」(中・下)〔柱刻〕
 「女訓抄巻上(巻中・巻下)〔内題〕「女訓抄巻上」(巻中・巻下)」
 〔丁数〕全23〔本文行数〕11〔匡郭〕21.8×15.9〔挿絵〕ナシ
 〔用字〕漢字平仮名。〔刊記〕「寛永十九孟秋吉日／三条菱屋町
 林甚右衛門板」

〔備考〕教訓。上巻は常楽我浄から人間の四苦八苦、五障三従、
 陰陽説による男尊女卑。中巻は十戒 三毒、四魔から女性の健康
 法、家事技術。下巻はいろは歌の解説。八宗の教義。特に浄土宗
 の女往生説。

42 諸侯烈女伝〔登録159.6—5〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.0×15.5) 一卷一冊〔表紙〕黄色地ま
 んじつなぎ〔頭簽〕直書後題簽 左肩「諸侯烈女伝 全」〔柱

刻〕「烈婦伝」〔内題〕「有不為齋叢甲集」〔丁数〕全22.5〔本文行数〕10〔匡郭〕15.1×10.8〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字〔刊記〕「京都三条通御幸町 吉野屋仁兵衛（他十二店連記）」

〔備考〕伝記。安積信思順著。『明良洪範』の賢烈夫人の偉行を記す。尾張侯夫人、加賀重相夫人、細川侯夫人、佐竹侯夫人、酒井侯夫人、真田侯夫人、富田侯夫人、阿茶局、大婆、春日局、阿勝、原氏母。

43 女訓三乃道〔登録159.6—5〕

刊本 袋綴 大本（26.0×18.6）一巻一冊〔表紙〕灰白地色まんじ撃ぎ〔願簽〕刷原題簽 中央「女訓三乃道」〔柱刻〕「三の道」〔内題〕「女訓三の道」〔丁数〕全38.5〔本文行数〕6〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「文政九年戊仲春 玉成堂藏／書肆東都前川六左衛門／浪花河内屋木兵衛」

〔備考〕教訓。中村弘毅著。三從に因んで「むすめの道」「婦の道」「母の道」の三乃道に分けて教誡。頭書記事は「孝女」「貞女」「賢母」の例。別名「教草」。

44 慈母教草〔登録159.6—6—1—2〕

刊本 袋綴 半紙本（22.6×15.0）一巻二冊〔表紙〕紺色無地〔願簽〕刷原題簽 双郭 左肩「慈母教草 上」〔丁〕〔柱刻〕「慈母教草」〔内題〕（上巻欠）「慈母教草下」〔丁数〕全1〔本文行数〕8〔匡郭〕15.9×10.7〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名片仮名〔刊記〕「東京本石町式丁目梶屋嘉兵衛／江島萬笈堂」

〔備考〕教訓。長谷川協輔・高田義甫編。母親の子女教育の道を説く。巻上沐浴論 臍紐論 衣服論 種痘論 睡眠論 運行論 遊戲論 教育論 巻下防病論 住宅論 慈母養生。

45 新選女大学〔登録159.6—28〕

刊本 袋綴 半紙本（32.9×15.8）一巻一冊〔表紙〕黒紫色無地〔願簽〕刷原題簽 双郭 左肩「新選女大学 全」〔柱刻〕「女礼式新撰女大学」〔内題〕「新撰女大学」〔丁数〕全21.5〔匡郭〕18.9×12.9〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治十三年六月廿九日版權免許／同十七年四月十五日出版発行／編集人 佐久間舜一郎／松平直温／出版人 渡辺貞吉」

〔備考〕教訓。佐久間舜一郎・松平直温著。明治開化の時代に合致した「女大学」。頭書記事は「小学女礼式」。

46 神国女訓抄〔登録159.6—33〕

刊本 袋綴 半紙本（32.5×15.6）一巻一冊〔表紙〕白色無地〔願簽〕書後題簽〔柱刻〕「神国女訓抄」〔内題〕「神国女訓抄」〔丁数〕全20〔本文行数〕9〔匡郭〕18.3×13.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「安永七年戊戌春／京都弘所書林 御池車屋町角 吉田平兵衛／新町四条上町 鈴木半兵衛」

〔備考〕教訓。山口日向守貫道著。神道は女人を親しみ、釈氏は五障を説く。女性の教訓を神道特に天照大神に係わって説く。

47 世界婦人往来竹田〔登録215.9—5〕

刊本 袋綴 中本（17.5×12.1）一巻一冊〔表紙〕薄青色布目地〔願簽〕刷原題簽 双郭 左肩「世界婦人往来竹田 完」〔柱刻〕「婦人往来」〔内題〕「世界婦人往来」〔丁数〕全25.5〔本文行数〕5〔匡郭〕13.8×9.8〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕明治六第四御免許／同第八月発売 著述大坂塩川三丁目 山本与助／書肆宝文堂 同心斎橋筋老丁目／大野木市兵衛版」

〔備考〕往来。山本与助著。女子が親となった時、子に世界の

諸国のことを語り聞かせるためのもの。頭書記事は「勅諭之略」
「京都女学生」「世界諸国の人口など」「五十音図」「ローマ字」。

48 世説児談

【登録159.5-3-1~5】

刊本 袋綴 半紙本 (22.5×16.1) 八巻八冊【表紙】藍色無地
【頭簽】刷原題簽 双郭 左肩「世説児談 一」(一八)【柱刻】
「児 巻一」(一八)【内題】「児談 巻之一」(一八)【丁数】全
115.5【本文行数】8【匡郭】18.4×11.8【挿絵】アリ【用字】
漢字平仮名【刊記】「延享五年戊辰正月朔旦／書林 京師塩川通
仏光寺町下町 河内屋四郎右衛門(他に大坂の大野木市兵衛、江
戸の須原屋茂兵衛)」

【備考】説話。日本摺雅亮。序によると洛南に総明多学の児童
がありその話を編述したもの。巻一「神道本」巻二「呂氏」巻三
「名利」巻四「世説夙恵」巻五「世説賢媛」巻六「得時与不得」
巻七「老子」巻八「用達」。

49 訓

【登録159.7-1】

刊本 袋綴 半紙本 (22.4×15.9) 二巻一冊【表紙】朽葉色無
地【頭簽】刷原題簽 双郭 左肩「訓前訓 全」【柱刻】「前訓
上」(ト)【扉題】「前訓口教男子部」(女子部)【丁数】全33【本
文行数】10【匡郭】18.9×13.4【挿絵】アリ【用字】漢字平仮名
【刊記】「寛政四年壬子九月改刻／京都弘所書林 山本長兵衛(他
三店連記)」

【備考】教訓。手島堵庵著。堵庵の安永二年の教諭筆録。心学
思想によって日常生活に肝腎な作法心得を平易に教諭したもの。
上巻は「男子口教」。下巻は「女子口教」と「司馬温公家範婦人
六徳の和解」。安永二年初版。安永七年再版につぐ改刻版。

50 続列女伝

【登録281.09-10-1~2】

刊本 袋綴 大本 (35.8×17.6) 二巻二冊【表紙】紺色無地
【頭簽】刷原題簽 双郭 左肩「続列女伝 上」(下)【柱刻】「続
上」(下)【内題】「新続列女伝 巻之上」(巻之下)【丁数】全
78【本文行数】10【匡郭】19.6×13.7【挿絵】ナシ【用字】漢字
【刊記】「承応三年甲午五月穀旦／室町通鯉山町小嶋弥左衛門板
行」

【備考】伝記。『古列女伝』の増補。上巻は五代から、元に至る
までの列婦の伝記、下巻は国朝、百済、高麗の列婦の伝記。

51 妻鏡

【登録159.6-31】

刊本 袋綴 大本 (35.5×18.1) 一巻一冊【表紙】藍色無地
【頭簽】刷原題簽 双郭 左肩「妻鏡」【柱刻】「妻鏡」【内題】
「妻鏡」【丁数】全21【本文行数】10【匡郭】21.3×15.1【挿絵】
ナシ【用字】漢字平仮名【刊記】「寛永十八年辛巳／春三月吉日
刊行」

【備考】教訓。無住道暁著。無常観の解説、信心者の少ないこ
とを嘆き、女人の罪障を説き、念仏口称の実践を勧める。成立は
正安二年(1300)。

52 貞女染女行状

【登録159.6-40】

刊本 袋綴 半紙本 (22.7×15.4) 一巻一冊【表紙】藍色無地
【頭簽】刷原題簽 单郭 左肩「現在貞婦染女行状」【柱刻】「貞
婦染女行状」【内題】ナシ【丁数】全24【本文行数】10【匡郭】
17.5×11.8【挿絵】ナシ【用字】漢字平仮名【刊記】「安政四年
丁巳新刻／江戸書林 文苑閣発市(表紙裏)「京都寺町通松原下
ル、勝村治右衛門(他十四店連記)」

〔備考〕伝記。日野くに子著。武州多摩郡大谷村の農民平左衛門の妻染女の義烈賢女の物語。

53 童蒙家訓〔登録159—2—1—2〕

刊本 袋綴 大本(26.0×17.6)二巻二冊〔表紙〕茶色無地
〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「竊童蒙家訓 上」(下)〔柱刻〕
「滿益集 上」(下)〔内題〕「童蒙家訓」〔丁数〕全40.5〔本文行
数〕12〔匡郭〕21.2×15.5〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊
記〕「享保三戊戌年五月吉日 中村七兵衛」

〔備考〕教訓。是庵玄貞著。子弟に聖賢の道を志さしむるため
俚俗語をもって教誡。上巻「専法度守事」「言語慎之事」「身上見
立事」「常々行儀之事」「身の程之事」「油断之事」「居所可選事」
「人交之事」「理発之事」「教之事」「修行の事」。下巻「五倫、五
常」。

54 二十四孝伝〔登録152.6—8〕

刊本 袋綴 大本(26.0×19.1)一巻一冊〔表紙〕藍色無地
〔題簽〕書後題簽 左肩「二十四孝伝」〔柱刻〕「二十四」〔内題〕
ナシ〔丁数〕全25.5〔本文行数〕14〔匡郭〕23.1×16.9〔挿絵〕
アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「貞享三丙寅九月吉日／武州江
戸日本橋南一丁目平野屋清三郎／大坂書林 三郎兵衛」

〔備考〕伝記。二十四孝子は大舜、漢文帝、老萊子、黄香、関
子雋、姜詩、吳猛、董永、唐夫人、揚香、孟宗、郭巨、朱寿昌
曾參、王祥、蔡順、庾黔婁、山谷、王喪、丁蘭、張孝張礼、田真
田広田慶、陸績、剡子、配列からすると本書の原題簽は「二十四
孝診解」(貞享三年九月)か。

55 日課念仏士女訓〔登録159.6—22〕

刊本 袋綴 大本(26.7×18.8)一巻一冊〔表紙〕灰黒色無地
〔題簽〕刷原題簽、双郭 左肩「日課念仏士女訓」〔柱刻〕「日課
念仏士女訓」〔内題〕「日課念仏士女訓」〔丁数〕全26〔本文行数〕
10〔匡郭〕21.8×15.3〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕
ナシ

〔備考〕教訓。念海著。極楽往生には念仏を日課とすべし。浄
土への願いは七門を開くにある。七門とは「三世因果門」「人身
難得門」「厭貪三心門」「一向専修門」「日課念仏門」「現世護念
門」「子持繁昌門」。

56 日本女鑑〔登録159.6—27—1—2〕

刊本 袋綴 半紙本(23.0×15.3)二巻二冊〔表紙〕青色まん
じつなぎ〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「日本女鑑」(一)〔柱
刻〕「日本女鑑卷之一」(卷之二)〔内題〕「日本女鑑卷一」(卷二)
〔丁数〕全100.5〔本文行数〕10〔匡郭〕17.6×11.1〔挿絵〕アリ
〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治二十五年二月十五日印刷／同二
十五年二月十八日出版 編輯人 風当朔朗 発行印刷人 小林義
則 発兌 文学社」

〔備考〕伝記。風当朔朗著。小学、高等科の女子修身の書。巻
一「勧学の心得」「修身」女の心だてのこと。「孝子」筑後国の孝
女とめ、三河国の孝女とめ。「良妻」吉田松蔭の母滝子、二村清
助の妻えい女。「賢母」松下禅尼。巻二「勧学」紫式部。「修身」
滝鶴台の妻。「孝子」福依亮、橘逸勢の女。「良妻」農夫忠五郎の
妻、山内一豊の妻。「賢母」松本定章の妻、楠正行の母。

57 ねむりさま [登録159.5-4]

刊本 袋綴 半紙本 (32.8×16.0) 一巻一冊 [表紙] 乳白色無地 [題簽] 書後題簽 左肩「女児ねむりさま」 [柱刻] 「眠寐」 [内題] 「女児ねむりさま」 [丁数] 全195 [本文行数] 8-10 [匡郭] 17.2×12.6 [挿絵] ナシ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「安永二年癸巳仲秋 / 中島保教」

〔備考〕教訓。手島堵庵著。修身の要語をいろはの序を以て平易に教えた。「いちわるふは生れはつかぬ直が元来うまれつき」「ろくなこゝろを思案でまげるまげねばまからぬわがこゝろ」など。他に「孟子論語などに因むいろはうた」など。天明八年正月板木が火災にあいその後の版行。

58 姫鏡 [登録159.6-34-1-16]

刊本 袋綴 半紙本 (32.8×16.1) 三巻一六冊 [表紙] 麻の葉地丸に小松菊ちらし [題簽] 刷原題簽 左肩「姫鑑」 (一六) [柱刻] 「姫鏡」 [内題] 「比売鑑巻之一 (一巻之十二)」 [比売鑑紀行巻第一 (一巻三十九)] [丁数] 全567 [本文行数] 10 [匡郭] 19.9×14.4 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「宝永六龍集己丑載孟春穀日 江戸日本橋南町丁目 須原屋茂兵衛蔵板」 (第七冊末) 「正徳武蔵壬辰正月吉旦 武江日本橋町丁目 書肆千鍾堂須原屋茂兵衛蔵板」 (第十六冊末)。

〔備考〕教訓。中村惕斎著。『小学』に抛り女子を目的とした。述語第一「人となす道」第二「孝行の道」第三、四「婦人夫に従ふ道」、第五、六「広く人を愛する道」第七-十二「学問修身の道」。紀行第一-第十九は日本中国の話の中の貞女烈女の言行の紹介。

59 婦人寿草 [登録159.6-32-1-6]

刊本 袋綴 大本 (35.7×18.0) 三巻六冊 [表紙] 紺色無地 [題簽] 書後題簽 左肩「婦人寿草」 (一六) [内題] 「婦人寿草巻上」 (上二、中三、四下五、六) [丁数] 全125.5 [本文行数] 11 [匡郭] 19.7×15.3 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「享保十一丙午年 / 京寺町通 勝村治右衛門 / 寛政八年丙辰四月補刻 大坂心斎橋筋高橋喜助 / 同柳原喜兵衛」

〔備考〕作法。香月貞庵著。香月啓益編。婦人が世嗣を求める術に始まり、妊娠の間の保養、産後の日本中国の慣例を記す。「求嗣の説」「子を求むるの術」から最後は「産後摂養治療の記」の条々。

60 北斎女今川 [登録159.6-41]

刊本 袋綴 半紙本 (33.8×16.1) 一巻一冊 [表紙] 黒色雲紋 [題簽] 刷原題簽 左肩「北斎女今川全」 [内題] 「北斎女今川」 [丁数] 全29 [本文行数] 5 [匡郭] 18.6×13.0 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 原板所持者兼発行者 吉川半七 発売者林平次郎

〔備考〕教訓。源瑯著。北斎の絵図を入れた「女今川」。

61 本朝列女伝 [登録281.0-9-7]

刊本 袋綴 半紙本 (33.1×15.2) 一巻一冊 [表紙] 緑色無地 [題簽] 書後題簽 左肩「本朝列女伝」 [柱刻] 「本朝列女伝」 [内題] 「本朝列女伝」 [丁数] 全35 [本文行数] 10 [匡郭] 17.3×12.2 [挿絵] アリ [用字] 漢字平仮名 [刊記] 「明治十二年十二月二十三日版權免許 編輯人 松平直温 出版人 渡辺貞吉 売捌書肆 前川宗七」

〔備考〕伝記。松平直温著。勸善のために日本の烈女と評論。

楠正行の母、源渡の妻袈婆、源義経の妾静 細川忠興の室 松下
禅尼 久兵衛の妻 鳥井与七郎妻 和泉三郎忠衡妻 武田勝頼夫
人 忠左衛門の妻 鈴木宇右衛門の妻 島田母子 摂津の富女
田中庄三郎妻末 忠五郎の妻 原惣右衛門元辰の母 久左衛門の
妻。

62 本朝列女伝〔登録81.09—8〕

刊本、袋綴 半紙本 (22.5×14.8) 二巻一冊〔表紙〕黄色無地
〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「本朝列女伝 全」〔柱刻〕「本朝
列女伝巻上」(巻下)〔内題〕「^訂本朝列女伝巻の上」(巻の下)
〔丁数〕全33.5〔本文行数〕9〔匡郭〕15.1×10.4〔挿絵〕アリ
〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治十二年六月十四日板権免許／原
編輯人 疋田尚昌 増補人 斎藤実顕(外に出版人、発兌人)」
〔備考〕伝記。疋田尚昌・斎藤実顕著。日本古来の賢女貞女の伝
記。上巻 狭穂姫 馬飼歌依の妻 小式部の内侍 源渡妻袈婆
静女大磯の虎女 和泉三郎忠衡の妻 松下禅尼 楠正行の母 伊
勢国清太郎の妻 上野の松女 筑前の林女 伊勢国たは女 近江
の長女。下巻 瓜生判官の母 奈良左近の妹 鳥井与七郎の妻
武田勝頼の夫人 原惣右衛門元辰の母 鈴木氏の妻 摂津国富女
備中国庄五郎の娘 出羽国忠五郎の妻。

63 貞操鏡女房心得〔登録159.6—26〕

刊本 袋綴 中本 (17.7×11.3) 一巻一冊〔表紙〕男女の顔の
色刷り絵〔題簽〕直刷題簽 单郭 左肩「貞女鏡女房心得」〔柱
刻〕「貞操鏡」〔内題〕ナシ〔丁数〕全8.5〔匡郭〕14.9×
10.2〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治十二年月日

御届 編集者日本橋区新右衛門町九番地、安藤徳太郎／出版人本
郷区湯島屯丁目拾八番地斎藤長吉」。

〔備考〕教訓。草双紙風の作。秀亭綾蓑著。

64 明治孝節録〔登録152.6—9〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.6×15.3) 一巻一冊〔表紙〕黒色無地
〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「明治孝節録 一」〔内題〕「明治
孝節録 巻一」〔丁数〕全49〔本文行数〕9〔匡郭〕16.8×
12.0〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕ナシ
〔備考〕伝記。明治の孝悌忠信の操行ある人物を諸国から選出
して行状を記した。「越前新潟の笠原長四郎夫婦」「信濃国筑摩県
座光寺の矢沢角太郎」など。(巻一のみの零本)。

65 明治二十四孝〔登録152.6—6〕

刊本 袋綴 中本 (18.2×12.0) 一巻一冊〔表紙〕白地に青打
雲〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「明治二十四孝 完」〔内題〕
ナシ〔丁数〕全25〔本文行数〕13〔匡郭〕14.0×9.2〔挿絵〕ア
リ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治三十三年二月二日求版印
刷／明治三十三年三月二十日発行／発行者 東京市神田区美土代
町三丁目二番地 富田能次(他に印刷者・発行所)」
〔備考〕伝記。「明治二十四孝絵抄」とも。諸国の孝子を選出し
て二十四条とした。「羽後置賜郡長福村の板野重右衛門」「豊前国
の浅吉」など。

66 大和女誠〔登録159.6—30〕

刊本 袋綴 大本 (35.5×17.9) 一巻一冊〔表紙〕藍色無地
〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「^{女教}大和女誠 全」〔柱刻〕「大和

女誠」〔内題〕「大和女誠」〔丁数〕全20.5〔本文行数〕6〔匡郭〕21.3×14.6〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「天保十五年甲辰十月／江戸書林 日本橋通十軒店 播磨屋勝五郎板」

〔備考〕教訓。林道彰著。曹太姑の『女誠』の和訳本。曹太姑の伝と絵図のあと「卑弱章第一」「夫婦章第二」「敬慎章第三」「婦行章第四」「惡心章第五」「曲從章第六」「和拭妹章第七」。

67 嫁入談合柱〔登録159.6—29—1—2〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.5×15.3) 二巻二冊〔表紙〕藍色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「嫁入談合柱 上」(下)〔柱刻〕「嫁入談合柱」〔内題〕「嫁入談合柱」〔丁数〕全49〔本文行数〕10〔匡郭〕17.9×13.4〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「大坂書林 大坂心斎橋通安堂町／秋田屋太右衛門板」

〔備考〕作法。華鳳山人著。上巻婚礼の大意 日限談合の作法から上中下の身分に応じた婚礼式法作法を記す。下巻婚礼状案文、婚礼祝いの品々等。鳥羽了依の『嫁入談合柱』の後編。

68 劉向列女伝〔登録281.09—13—1—3〕

刊本 袋綴 半紙本 (23.0×15.5) 三巻三冊〔表紙〕濃紺まんじつなぎ〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩〔劉向列女伝 一〕(二)〔柱刻〕「劉向列女伝 万青堂」〔内題〕「参訂劉向列女伝 卷一」(一巻三)〔丁数〕全122.5〔本文行数〕全11〔匡郭〕(8.8×11.7)〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「明治十年十二月五日御届／同十一年五月出版／標注者松本万年／出版人別所平七／(他に東京発兌書林七店連記)」。

〔備考〕伝記 松本万年著劉向の『列女伝』を頭注付けで注解した和刻本。

69 歴史世装考〔登録383.1—153—1—4〕

刊本 袋綴 大本 (26.1×18.5) 四巻四冊〔表紙〕茶色縦刷毛目〔題簽〕刷原題簽 单郭 左肩「歴世女装考 春」(夏・秋・冬)〔柱刻〕「女装考卷一」(一巻四)〔内題〕「歴世女装考卷一」(一巻四)〔丁数〕全32.5〔本文行数〕12〔匡郭〕20.8×15.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「弘化四年丁未仲秋官許」「津速堂蔵版／京都三条通御幸町角 吉野屋大谷仁兵衛」

〔備考〕考証。岩瀬百樹著。結髪など古今の女装についてその起源種類名称風習などにこつこの考証。

70 列女百人一首〔登録911.14—13〕

刊本 袋綴 中本 (8.0×12.2) 一巻一冊〔表紙〕灰色浮線綾〔題簽〕書後題簽 左肩「列女百人一首 全」〔柱刻〕「列女百首」〔内題〕ナシ〔丁数〕全60〔本文行数〕12〔匡郭〕15.6×10.6〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「弘化四丁未年正月発市／東都書肆 馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛」

〔備考〕伝記。緑亭川柳著。日本の貞婦烈婦のうちから和歌に志のある者百人を集めた。平郡千左登、中将姫、熱田緑采女など。巻頭記事は「絵入和歌の起源」「職人三十六歌仙」「やまとぶみの詞」など。

71 和解女四書〔登録919.5—2—1—5〕

刊本 袋綴 大本 (27.0×19.0) 五巻五冊〔表紙〕紫色地まんじつなぎ〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「和解女四書 一」(一五)〔柱刻〕「女四書卷一之女誠」(巻之二論語卷之三孝経 卷之四内訓上 卷之五内訓下)〔丁数〕全113.5〔本文行数〕9〔匡郭〕23.7×13.4〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名片仮名〔刊記〕

「明治十六年七月七日本権免許／同年十二月廿六日出版／出版人安達清風／印刷発売所修道館／販賣所 松田正介」

〔備考〕教訓。若江秋蘭著。『女誠』『女論語』『女孝経』『内訓』を合わせた女四書の注解。本文に逐次頭注を付け解説。

72 我津恵〔登録159.6—37〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.3×15.8) 三巻一冊〔表紙〕朽葉色無地〔題簽〕書後題簽 左肩「我津恵」〔柱刻〕「我杖」〔内題〕「我津恵」〔丁数〕全33.5〔本文行数〕9〔匡郭〕19.0×13.6〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「安永四年未五月循古堂藏／弘所京都書林六角通御幸町西に入町 小川多左衛門(他三店連記)」〔備考〕教訓。手島堵庵著。庶民の日常心得。上巻「主人心得の話」「家来心得の話」など十一條。中巻「富貴貧賤に交わる心得の話」「つくねんとしては遊びも詮なき話」など二〇條。下巻「世間に仕合にて家を買うを羨む話」「商人はいかにも欲少なきをよしとする話」など十四條。

73 和漢二十四貞女〔登録159.6—7〕

刊本 袋綴 大本 (24.8×17.5) 一巻一冊〔表紙〕黒色無地〔題簽〕書後題簽 左肩「和漢二十四貞女」〔内題〕「和漢廿四貞女伝」〔丁数〕全48〔本文行数〕11〔匡郭〕20.6×15.3〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「嘉永四年亥年春／京都書林三条通寺町西へ入 吉野屋甚助／同出店」

〔備考〕伝記。八島五岳著。「中国の列女伝」に倣って日本の貞女も加えた。宜姜后、譚氏妻、王貞婦、慎氏、阿都麻、下野国女、鮑女宗、孟姜、楽羊子妻、雀氏、邵陽友姉、唐貴梅、難波部首刀自売、元姫子、義経妾静、王醜々、秋潔婦、裴氏、山名氏清妻

孟光 董氏 於栗 陳寿妻 文德皇后。

74 和論語〔登録919.5—3—1—10〕

刊本 袋綴 大本 (26.0×18.6) 一〇巻一〇冊〔表紙〕藍色無地〔題簽〕刷原題簽 双郭 左肩「和論語 一」(一十)〔柱刻〕「和論語卷一(一十)」〔内題〕「倭論語卷第一」(一十)〔丁数〕全28〔本文行数〕10〔匡郭〕20.6×15.5〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔刊記〕「寛文九己酉稔閏陽月良辰日／埜田弥兵衛」〔備考〕教訓。神代より近世初までの諸神、天皇、著名人の処世心得に対する名句名言を集めた。「神明部」「人皇並親王部」「公卿部」「武家部」「貴女部」「釈氏部」。巻七「貴女部」には天豊媛命、押姫命以下一〇九人の女性。内題に「倭論語」とあるから「倭小学」の例から「やまとろん」と読むか。

1 奥羽婦人伝〔登録281.06—2—1—2〕

刊本 袋綴 活字本 全二冊 明治三五年香雪精社刊 伝記 佐沢広胖著。

2 三尾婦女善行録〔登録159.6—1〕

刊本 活字本 全一冊 大正元年一誠社刊 伝記 愛知県立高等女学校校友会編。

3 続三尾婦女善行録〔登録159.6—35—2〕

刊本 活字本 全一冊 大正二年一誠社刊 愛知県立高等女学校校友会編。

4 女流文学史〔登録910—10〕
刊本 活字本 全一冊 明治三四年東洋社刊 小森甚作・上地
信成編。

5 女訓評釈〔登録159.6—11〕
刊本 活字本 全一冊 明治三五年博文館刊 評釈 于河岸貴
一著。

6 大日本史列女伝蒙求〔登録281.09—12〕
刊本 袋綴 全一冊 刊年版元不明 伝記 小野崎通亮著。

7 千代田城大奥〔登録210.09—5—1—2〕
刊本 活字本 全二冊 明治二八年林書房刊 考証 永島今四
郎 太田霽雄著。

8 童子訓〔登録159.5—5〕
刊本 袋綴 活字本 全一冊 明治二六年目黒十郎支店刊 教
訓 貝原篤信著。

9 東洋女訓叢書第二篇〔登録159.6—24〕
刊本 活字本 全一冊 明治三三年愛善社刊 教訓 石川正作
著。

10 南坊録〔登録791.2—8—1—6〕
刊本 袋綴 活字本 全六冊 大正六年細川開益堂刊 教訓
南坊宗啓著。

11 日本婦人鑑〔登録159.6—23〕
刊本 活字本 全一冊 明治二九年積善館刊 伝記 鈴木常松
著。

12 婦女鑑〔登録159.6—25—1—3〕
刊本 袋綴 活字本 全三冊 明治三八年吉川半七刊 教訓
杉孫七郎編。

13 婦女鑑・幼学綱要〔登録159.6—36—1—7〕
刊本 袋綴 活字本 全七冊 明治二六年宮内省刊 教訓 杉
孫七郎編。

14 もとのしづく続編〔登録911.1—25—2〕
刊本 活字本 全一冊 明治三四年金港堂刊 教訓 三宅龍子
著。

15 列女伝〔叢刊本列女伝〕〔登録281.09—9—1—9〕
刊本 袋綴 活字本 全九冊 大正一四年図本叢刊会刊 伝記
大村西崖編。